

ジロちゃん トモちゃんの



トモちゃん出版記念

音楽授業
フアクトリ

2022年8月21日(月・祝) 15時~17時 (14時30分受付開始)
Zoom ミーティングによるオンラインセミナー

今回のテーマは「教師の言葉がけ・教師が選ぶ言葉」

3つの資質能力に再整理された現在の学習指導要領。音楽科の授業づくりにおいてもマイナーチェンジが求められていると感じます。その中の一つが、今回のテーマである「教師の言葉がけ」「教師が選ぶ言葉」だと思ふ日々です。以下、ジロトモからのメッセージです。

『子どもに寄り添う言葉がけて何だろう?』

私たち教師は、子どもたちにどれくらい言葉をかけているのでしょうか。1日1日、きっと数えきれないくらい言葉をかけていると感じます。その多さゆえにどんな言葉かけたか一つ一つを記憶できないのが正直なところ。私たちのこれまでの教師生活を思い返してみると、一つの言葉で子どもたちとの関係が良好になった経験や、その逆の経験もたくさんしてきました。関係だけでなく、子どもたちが一つの言葉から活動に前向きになってくれる場面やその逆もたくさんあったように思います。それだけ言葉には強い力が宿っていると感じます。是非、先生方と一緒に「どんな言葉がけが子どもたちへ届いていくのか」「どんな言葉で学びが深まっていくのか」を考えていきたいです!(岩井智宏)

今期の指導要領になり、子どもの気付きを促したい、自分なりの考えがもてるように導きたいという想いは強くなりました。そのような中で、私が見直した点は「選ぶ言葉」です。私も「〇〇のように歌いましょう」というような一方的な言葉や「できる人、わかった人」というように一歩先を行く子どもに適する言葉を選ぶこともありました。しかし、それが定番化すると子どももつぶやきがなくなり、反応がなくなり、ノートなどへの記述も「楽しかった」で終わってしまうのです。教師の指導力、そして一歩先を行く子どもたちにだけ視点をあてるような指導法だけではなく、子どもが音や音楽に対してどのように見えているのかという「みえ方」を優先させた授業づくりを目指しています。そのためには一方的な言葉や「わかった、できた」を前提とした言葉を選択することは、見直す必要があると思うのです。最近好んでいる言葉の選び方は「歌いしみこむ」「歌い馴染む」です。今回は、子どものエネルギーが出るような言葉や子どもの気付きや自分なりの考えにたどりつくような言葉の選び方を授業場を提示しながらご紹介していきます。(平野次郎)

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

案内役：平野次郎(筑波大学附属小学校教諭)
岩井智宏(桐蔭学園小学校教諭)

参加費：2500円

※「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 音楽編」(書籍でもWeb版でも可)をお持ちの方は、当日お手元にご用意ください

※お申込み・Zoomでのご参加にあたっては、留意事項がいくつかございます。詳細は右記「teket」のページでご確認ください。

受付締切 3月20日 20時
お申込みはこのQRコードから♪
「teket」申込ページにジャンプします!



主催：音楽授業のマナviva・株式会社 鈴木楽器製作所

問い合わせ：manavivamusic@gmail.com (音楽授業のマナviva事務局)

※急な災害などでやむを得ず中止にする場合がございます。その際は上記イベントページのページをご確認ください。